

制服は必要か「否定側の立論」

司会 では、否定側の立論を始めてください。時間は同じく2分です。

否定側の立論

これから「制服は必要でない」という否定側の立論を行います。メンバーは、みなさんから向かって左から、高橋、阿部、吉田そして立論を述べる伊藤です。どうぞよろしくお願ひします。

私たちは「制服の欠点」について考えました。

第一に、制服は活動的でないということです。たとえば、先生がよく注意されるスカートの丈ですが、スカートが短いとぞうきんがけができないと言われますが、では長かったらどうでしょうか。ヒダが多すぎてやりにくいと思います。掃除に限らず、制服は重く、活動的ではありません。

第二に、制服は不潔だということです。みなさんも、私服のブラウスやシャツを着たときに、一日でそでやえり口が汚れるのはよく経験していると思います。冬服は紺色なので目立ちませんが、汚れは同じはずです。それを毎日着ていると思うと、気持ち悪くありませんか。中学生である私たちは、毎日着替えられる私服の方が清潔で、健康的だと思います。

第三に、寒暖の調節ができないということです。特に衣替えの時期に感じませんか。気温は毎日違います。同じ五月でも、涼しい年もあれば暑い年もあります。秋も同じです。決まった時期に夏服、冬服と決められるのは不快なことです。夏服の時期に涼しいのは、上に何か着ればいいのですが、冬服のときに暑いと最悪で、勉強にも身が入りません。

四番目に、制服では個性が出ないということです。みんな顔が違うように、似合う色や形も別々だと思います。丸いえりやカラーシャツが似合う人、明るい色が似合う人、それぞれに合わせて服を着るのがいいと思います。みんなが同じ紺色の制服を着ていては、個性がないと思います。なぜ個性が大事かという、それは、その人らしさ、その人自身を表現することだからです。人それぞれがいろいろな考えや意見をもっているのと同じように、服装もその人らしいものを着てもよいと思うのです。

五番目は、男子の詰めえりのことです。これは女子からみても、どこがよくてあんなふうになっているのかよく分かりません。長所はまったくないと思います。きつそうで、暑苦しそう、着ている本人も不快なのではないでしょうか。

最後に、「私服は派手になる」という反論がありますが、毎日のことだからすぐにあきてしまうし、みんなから白い目で見られて、結局派手な人はいなくなると思います。また「毎日取り替えるのは大変だ」という意見がありますが、自分に似合う服を、二、三着用すればそれですむのです。

今まで述べてきた理由から、私たちは制服に反対します。みなさんは、どう思われるでしょうか。これで、否定側の立論を終わります。

司会 ありがとうございます。時間はちょうど2分でした。では、これから2分間の作戦タイムに入ります。肯定側、否定側、それぞれ作戦を開始してください。判定員のみなさんは、判定表の立論の欄に5点満点で点数を書き入れてください。

(作戦タイム 2分)